

船岡町埋蔵文化財発掘調査報告書

FUNAOKATYOU MIZUKIOOHATA

# 船岡町・見櫻大畠遺跡試掘調査報告書

2003・3

船岡町教育委員会

## 序 文

このたび、船岡町見櫻地内に、ほ場整備事業が計画されたので、早急に調査を実施し、工事計画との調整を図る必要が生じたため、試掘調査を実施することとなりました。

この付近は、平成3年度に隣の集落の西谷字牧野での発掘調査が行われた際に、遺物（土師器・須恵器などの破片）や遺構が見つかっている関係もあり、埋蔵文化財包含の可能性があるということで、鳥取県埋蔵文化財センターの指導を受けて、平成14年8月12日より調査を実施しました。

夏の暑い時期での作業となりましたが、作業に当たっていただいた方々の積極的な協力もあって、予定どおり実施することができ、本書に記載のような結果を得て無事終了いたしました。

この間、終始適切な指導・助言をいただいた、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターの職員の皆さん、また発掘作業にご尽力をいただいた地元集落関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

船岡町教育委員会

教育長 西 村 捷 義

## 例言

- 1) 本報告書は、平成 14 年度中山間地域総合整備事業（見櫛工区は場整備）に伴い、船岡町教育委員会が実施した、見櫛大畠遺跡試掘調査報告書である。
- 2) 遺跡の所在地は、鳥取県八頭郡船岡町大字見櫛に所在する。
- 3) 調査期間は平成 14 年 8 月 19 日 から 10 月 18 日 まで現地調査を実施し、以後、平成 15 年 3 月末日まで屋内で整理作業・報告書作成を行った。
- 4) 本書で使用した方位は真北を示し、遺跡の位置については国土座標第 V 系を使用した。
- 5) 本書では、 T : トレンチ MO : 見櫛大畠 の記号を使用した。
- 6) 本書に関する資料の全ては、船岡町教育委員会が保管・管理・活用する。

## 調査関係者

- 1) 調査主体 船岡町教育委員会
- 2) 調査団長 西村捷義（船岡町教育委員会教育長）
- 3) 事務局 東口善一（船岡町教育委員会課長補佐）
- 4) 調査員 松下利秀
- 5) 作業協力 笠田八太郎  
平木 卓美  
田中 熟  
田中 裕幸  
中田 豊  
平木 登  
見山洋太郎  
笠田 照子  
田中喜美恵

# 目 次

## 本 文 目 次

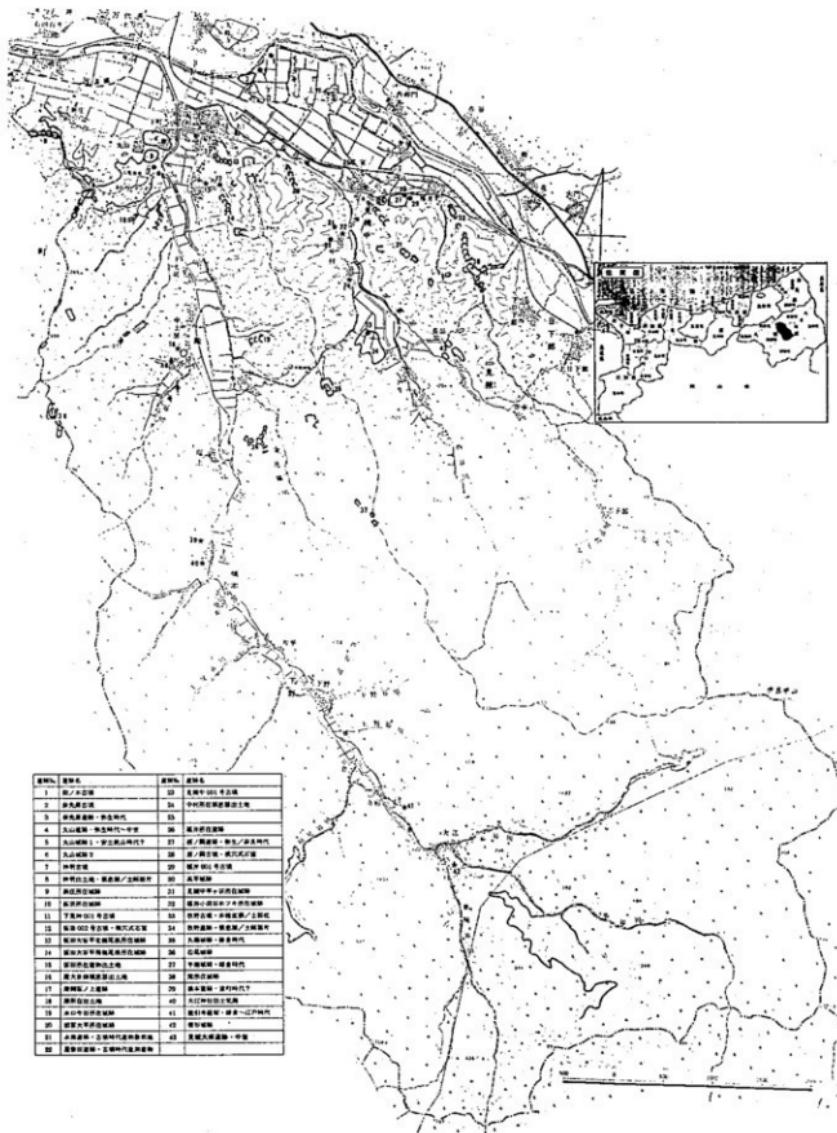
第Ⅰ章 調査の概要	2
第Ⅱ章 出土遺物の概要	8
第Ⅲ章 写真図版	10

## 挿 図 目 次

挿図-1 船岡町内遺跡分布図	1
挿図-2 試掘トレンチ分布図	3
挿図-3 第1トレンチ実測図	4
挿図-4 第3トレンチ実測図	4
挿図-5 第2トレンチ実測図	5
挿図-6 第4トレンチ実測図	6
挿図-7 第6トレンチ実測図	6
挿図-8 第5トレンチ実測図	7
挿図-9 第7トレンチ実測図	7
挿図-10 第8トレンチ実測図	8
挿図-11 トレンチ出土遺物実測図	9
挿図-12 平木氏採集遺物実測図	9

## 図 版 目 次

図版-1 第1・2トレンチ現地写真	10
図版-2 第3・4トレンチ現地写真	11
図版-3 第4・5・6トレンチ現地写真	12
図版-4 第7・8トレンチ現地写真	13
図版-5 第2トレンチ表採須恵器・第4トレンチ出土須恵器	14
図版-6 第4トレンチ出土弥生土器片及び土師器片	15
図版-7 第7トレンチ表採磁器及び平木氏採集中世遺物・他	16



挿図-1 船岡町内遺跡分布図

## 第Ⅰ章 調査の概要

トレンチ規模 2m×10m を八本設定して、遺構・遺物の検出を試みた。一部のトレンチで遺構検出の可能性があり拡幅調査を実施したが、全体として顕著なものは検出されなかった。

以下、各トレンチについて簡単に記述する。

### 第1トレンチ

2m×10m のトレンチで深さ 80cm を調査したが、遺構・遺物ともに検出しない。

### 第2トレンチ

最初は 2m×10m のトレンチを設置したが、深さ 30cm 付近で中央部～北東部にかけて落込みを確認した。そこで、その性格を調査するためトレンチを北方へ 5m 延長した。

その結果、弧状を呈する平面形で緩やかに落ちる自然地形と推定された。

表探遺物として、中世須恵器の小片を確認している。

### 第3トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。深さ約 40cm 前後で 5×8×12cm 大の石を 4 個検出した。この石の配列が柱間約 170cm 程度の平安期・南北棟を推定させ、石はその根石と思われた。そこで確認のため 150×130cm のトレンチを南方に設定したが、根石・掘り方・遺物ともに検出しなかった。

### 第4トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。深さ 45 ～ 55cm で外面廉状叩き・内面青海波の須恵器甕片 2 点、土師器甕片 2 点、巨礫 6 点などを検出したが、遺構は確認されなかった。

また深さ 80cm で古墳時代後期の須恵器甕片 2 点を検出し、深さ 90 ～ 110cm で弥生時代後期と推定される平底型土器片 1 点と丹塗り土器片 1 点・他を検出した。

深さ 80 ～ 90cm で小規模ピットと思われる遺構を 2 ～ 3 基確認したが有機的配列をせず、その他には遺構は検出されなかった。

### 第5トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。深さ 20 ～ 30cm で集積層に達し、その下位は旧河床疊層となる。

遺構・遺物とも出土しなかった。

### 第6トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。深さ 25cm 土で耕作土は無くなり、深さ 45cm 土で旧河床疊層に達する。遺構・遺物とも検出されなかった。自然地形の落込みが北西部方向へ推定された。

### 第7トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。表探として中世遺物の磁器小片を確認した。層厚 20cm の耕作土を除くとローム質土層となり、遺構・遺物は検出されなかった。

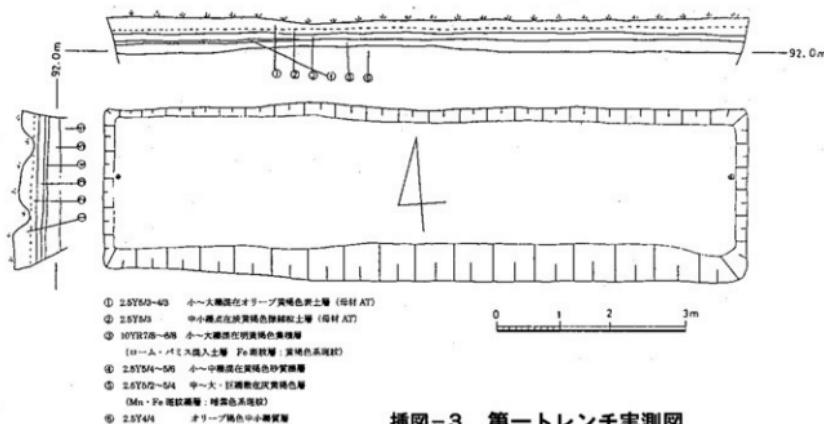
### 第8トレンチ

2m×10m のトレンチを設置。第 7 トレンチと同様で、層厚 20cm の耕作土を除くとローム質土層となり、遺構・遺物は検出されなかった。

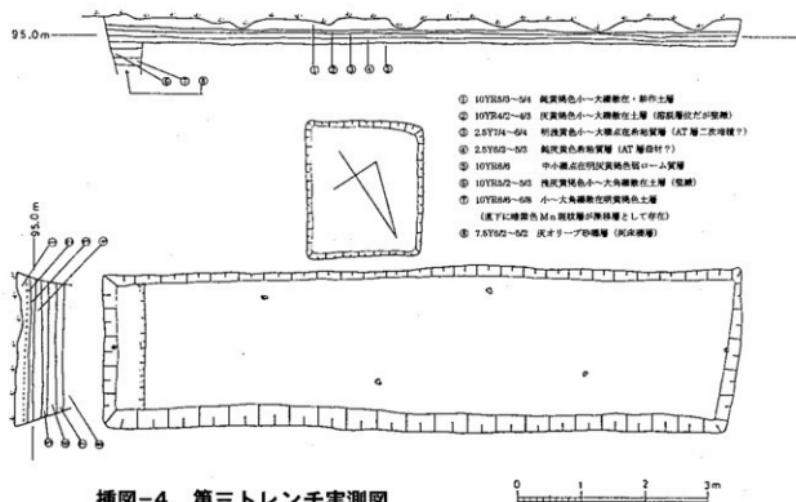
このトレンチの南東方向に埋積谷の中央が存在していると推定され、地表下 40cm で暗青灰色のグライ層に達し、その下位へ向い粘土化していく。



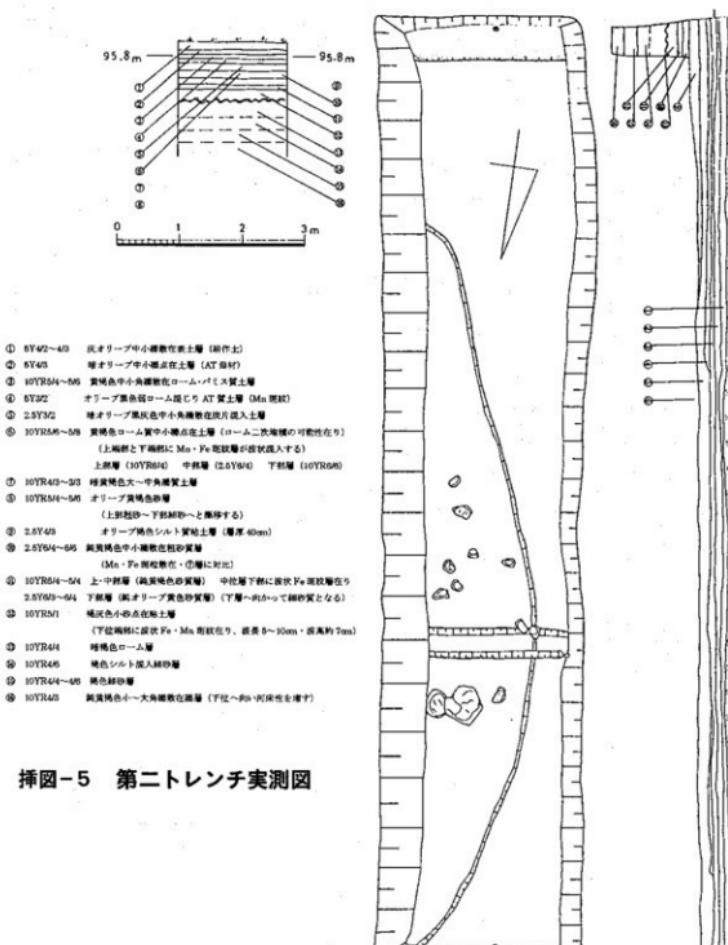
挿図-2 試掘トレンチ分布図



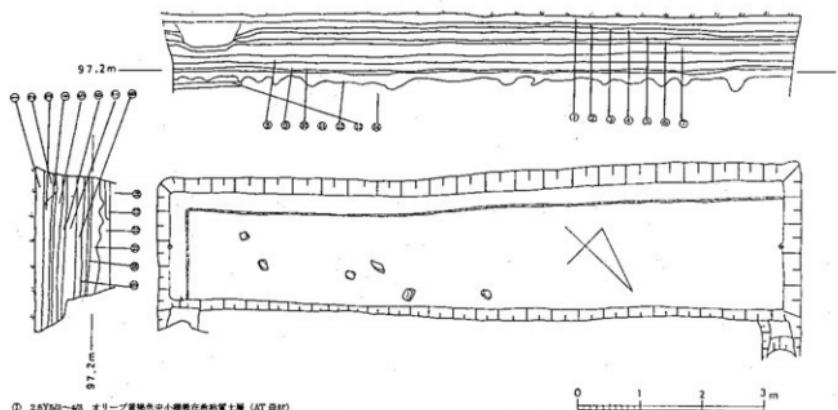
挿図-3 第一トレンチ実測図



挿図-4 第三トレンチ実測図

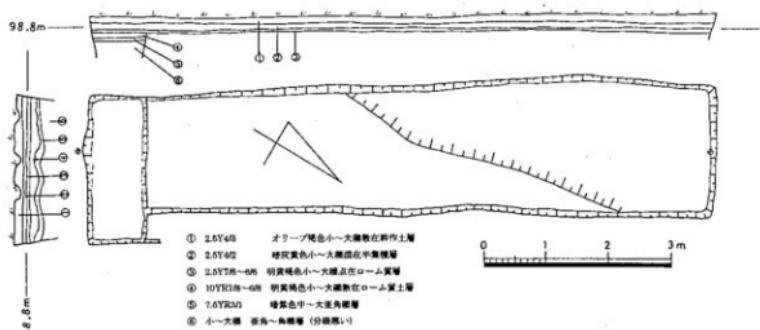


挿図-5 第二トレンチ実測図

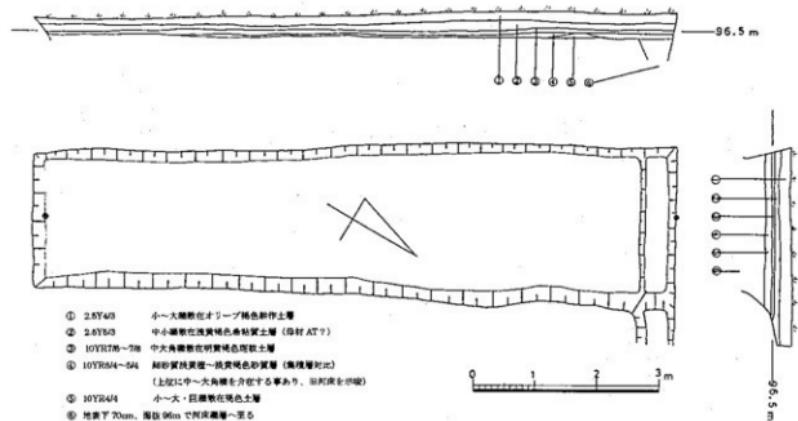


- ① 2.5YR02~4/8 オリーブ黄褐色中小塊状在ホルマイト層 (AT 母材)
- ② 2.5YR02~4/2 緑灰黃色中小塊状在大角砾点在ホルマイト層 (AT 母材・変質)
- ③ 7.5YR56~5/4 明黄色中~小塊状在土層 (ミミズニエ地塊) 上部層に角砾を多量に含み、下部に向って小角砾となつて粒度を減らす。下部層には比較的質実なる地層となる。
- ④ 2.5YR06~5/6 黄褐色中~小塊状在大角砾点在ホルマイト層  
(岩性は複雑で、その上部・下部の境界に斑状土層を見ない)
- ⑤ 2.5YR03 オリーブ黄褐色小~大角砾點在ホルマイト層 (上層から下層へ粒度が増加する)  
(中世高麗層に對比され、その粒度は古墳時代より今や變化)
- ⑥ 10YR56 緑灰褐色小~大角砾點在地塊層 (下部に岩長約 5mm・波長約 6mm 程度の緑褐色斑状 Mn 層が挟在する)
- ⑦ 10YR42~4/0 小~大角砾點在黄褐色土層 (本土層断面では最も緑色を呈し、中位で地塊の混入が大きくなる。上部が下部に比して緑色質思われる緑色層が大きい)  
(高良・平城時代地層)
- ⑧ 上剖面: 10YR56~4/0 黃褐色地塊層 (下部に解け斑状層、下位層中に径 5~10mm 角砾点在)  
下剖面: 10YR56~4/6 緑灰褐色地塊層 (下部に解け斑状層、下位層中に径 5~10mm 角砾点在)
- ⑨ 2.5YR02~5/0 緑灰黃褐色小~大角砾點在シルト質土層  
(古墳東南側に對比される可能性が高い)
- ⑩ 10YR42~4/4 緑褐色小~大塊状在漂層 (分後が無い角砾)  
⑪ 10YR43~4/4 黃褐色小~大塊状在漂層 (上層層)
- 7.5YR43~4/4 中小塊状在褐色ローム質土層 (下部層)  
(上部と下部の間に岩長 10mm・波長 8mm・標準約 5mm 程度の Fe/Mn 斑状沈積層が介在する)
- ⑫ 10YR44~4/6 中小塊状在綠褐色ローム質土層  
(褐色との間に層厚 1mm 程度 Mn 斑状沈積層介在)
- ⑬ 10YR43~5/3 小~大角砾點在褐色地塊色ローム質土層  
(古墳時代地層に對比される可能性大)
- ⑭ 2.5YR03~5/3 小~大角砾點在綠褐色地塊色ローム質土層 (既片点在)
- ⑮ 7.5YR56~4/6 中小塊状在褐色地塊色ローム質土層 (既二トレンチ高良層へと連続)

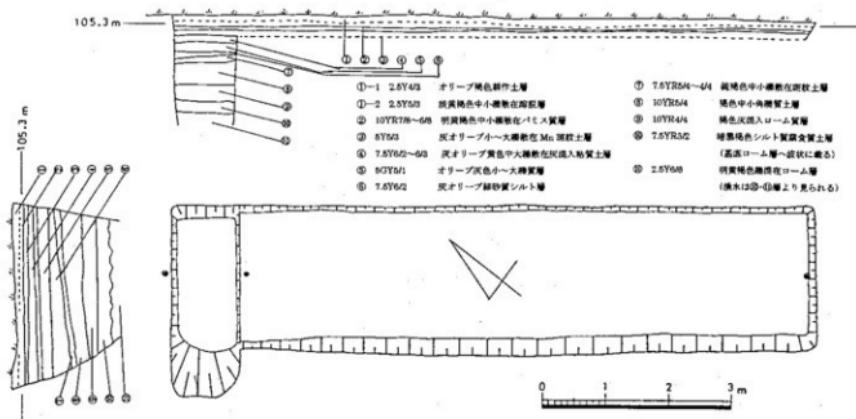
挿図-6 第四トレンチ実測図



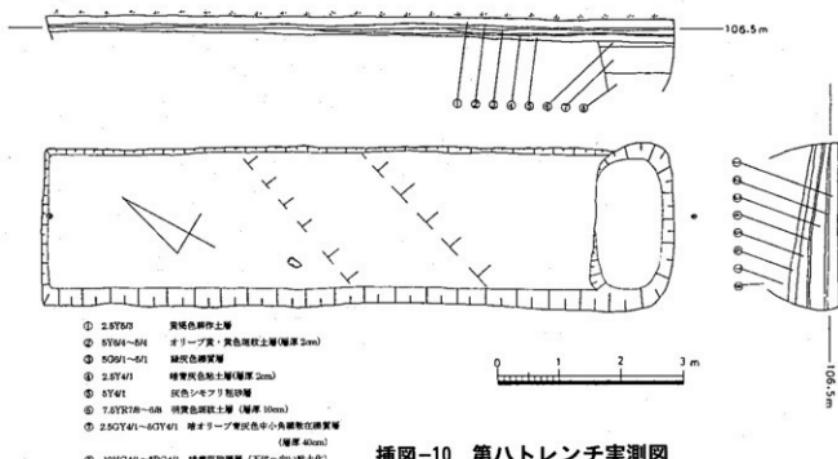
挿図-7 第六トレンチ実測図



挿図-8 第五トレンチ実測図



挿図-9 第七トレンチ実測図



挿図-10 第八トレンチ実測図

## 第Ⅱ章 出土遺物の概要

トレンチ規模 2m × 10m を八本設定して、造構・遺物の検出を試みた。出土遺物が確認されたトレンチは第4トレンチが大半であり、その他に若干の表採遺物と平木氏採集遺物が数点あった。以下、実測可能な遺物について略述する。

Po 1～7は、第4トレンチから出土したものである。Po 1は白磁の小鉢或は碗類であり、深さ—55cmで検出した近世遺物である。Po 2は深さ—45cmで出土した須恵器で中世の壺或は瓶類の底部である。Po 3は口頭部が「くの字」を呈する壺又は鍋類であり、口縁端面は内傾し角張る中世遺物である。Po 4は、Po 3と同じく深さ—55cmで検出した土師器壺の口頭部で口端部はやや尖り気味で、内面口頭部にヨコハケ仕上げが見られる。Po 5は深さ—80cmで出土した須恵器壺の口頭部である。外面肩部にカキメ調整後複雑な廉状叩きが施され、内面肩部には青海波が残る。Po 6・7は深さ—90～110cmで検出した弥生時代後期の物であり、Po 6は壺又は甕類の平底型土器であり、Po 7は高環脚部である。

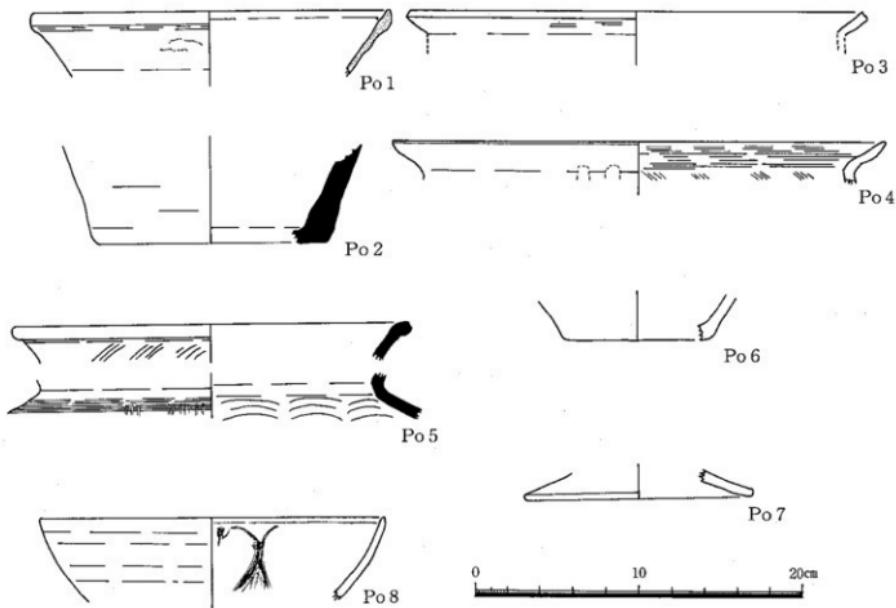
このトレンチの出土遺物は全体として層序毎に検出され、遺物の出土状況からみると⑤層が中世の寒冷期に対比され、⑦層が奈良・平安時代相当層、⑨層が古墳寒冷期に対比される可能性がある。そして⑩層が弥生時代後期に対比されるものと推定する。

また須恵器の甕類体部片として、外面廉状叩き後カキメ仕上げ・内面青海波叩き後弱ナデ調整の遺物も検出され、同種の遺物が第2トレンチからも表採されている。

Po 8は、第7トレンチ表採遺物であり、復元口径 21cm の磁器碗である。外面は白磁様を呈しており内面に染付が認められる。

### [挿図-12について]

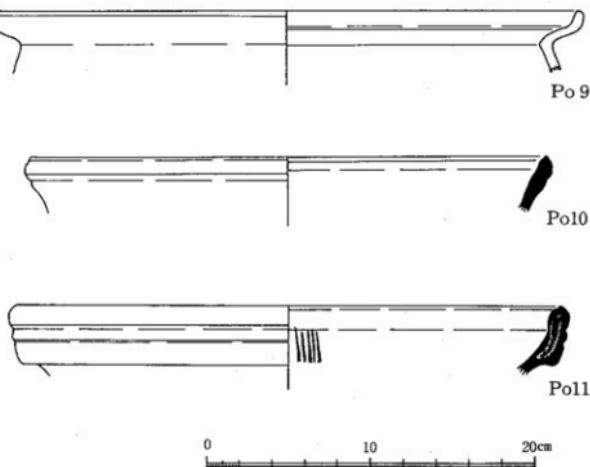
Po 9～11は調査の作業協力を頂いた、平木卓美氏が採集された遺物である。20点余の採集品の中から実測可能な遺物について報告して、この遺跡周辺の理解の一助となればと思います。



挿図-11 トレンチ出土遺物実測図

遺物採集地は、挿図2-1試掘トレンチ分布図のT.6の地点から北東方へ約90mにある★印に位置し、今回のは場整備事業からは圏外にある。

Po 9は外面にスス付着の中世土鍋、Po10は中世の鉢類。そしてPo11は備前焼・擂鉢であり、内面の一部に5本歯の櫛目を認める。Po 9は14世紀頃、Po10・11は17世紀初頭頃かと推定する。



挿図-12 平木氏採集遺物実測図

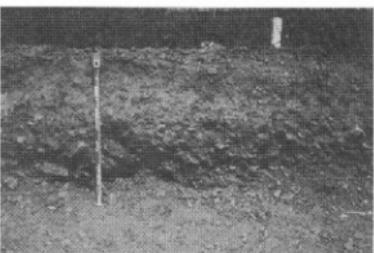
図版 1

第一トレンチ全景（東方より）



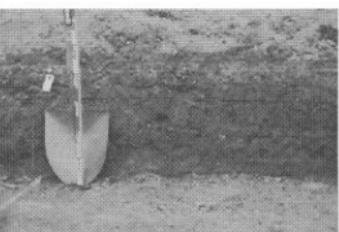
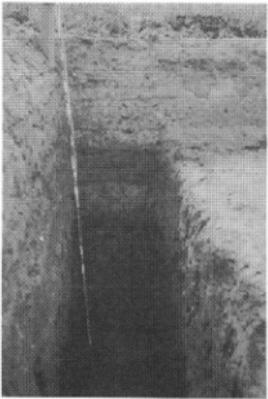
トレンチ設定（第二トレンチ）

第一トレンチ全景（西方より）



第一トレンチ土層断面・部分【西方より】

第二トレンチ西部土層断面（東方より）

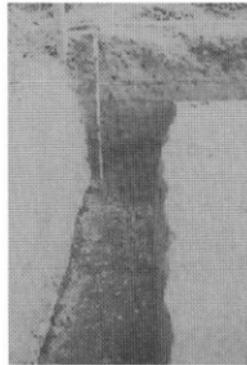


第二トレンチ部分土層断面【東方より】

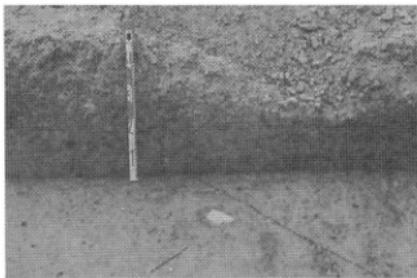
図版  
2



第三トレンチ全景（東方より）



第三トレンチ南部土層断面（北方より）

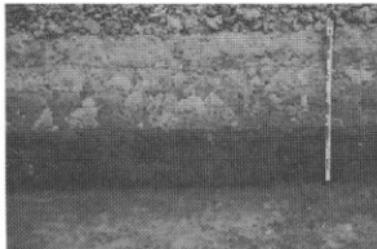


第三トレンチ根石？検出状況（北方より）

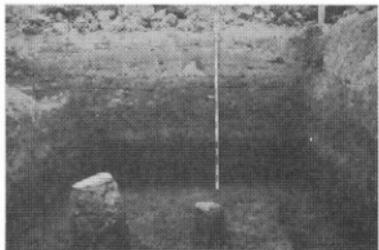
第四トレンチ全景（南方より）



第四トレンチ全景・最終面（南方より）



第四トレンチ土層断面・途中〔西方より〕



第四トレンチ南壁（北方より）



第四トレンチ土層断面（南方より）



第五トレンチ全景（東方より）



第五トレンチ西部土層断面（北方より）



第六トレンチ南部土層断面（北方より）



第六トレンチ全景（西方より）

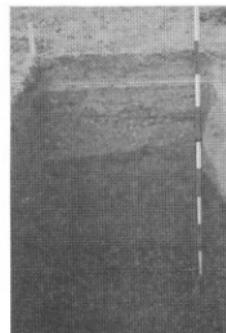
図版  
4



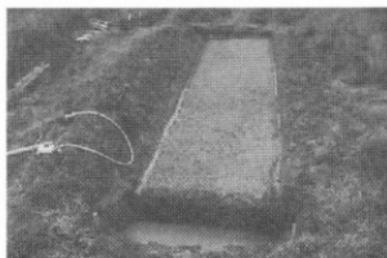
第七トレンチ全景 (西方より)



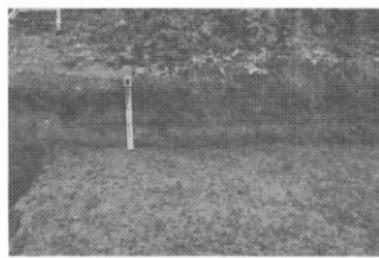
第七トレンチ東部深掘部  
(南方より)



第七トレンチ東部深掘部  
(南方より)



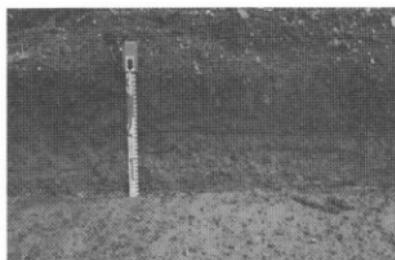
第八トレンチ全景 (東方より)



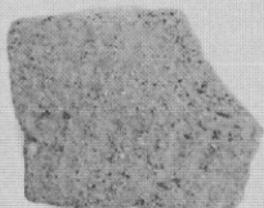
第七トレンチ部分土層断面 (南方より)



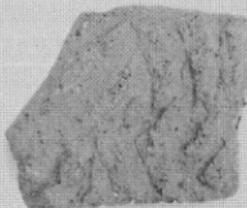
第八トレンチ東部土層断面 (西方より)



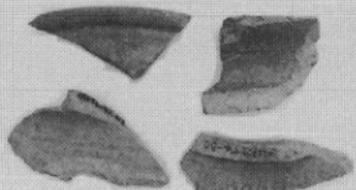
第八トレンチ北部土層断面 (南方より)



T 2 表採須甕片・表

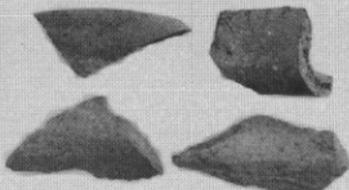


T 2 表採須甕片・裏



T 4 出土甕類口頸部片・表

Po 5



T 4 出土甕類口頸部片・裏

Po 5



T 4 出土甕片・表



T 4 出土甕片・裏



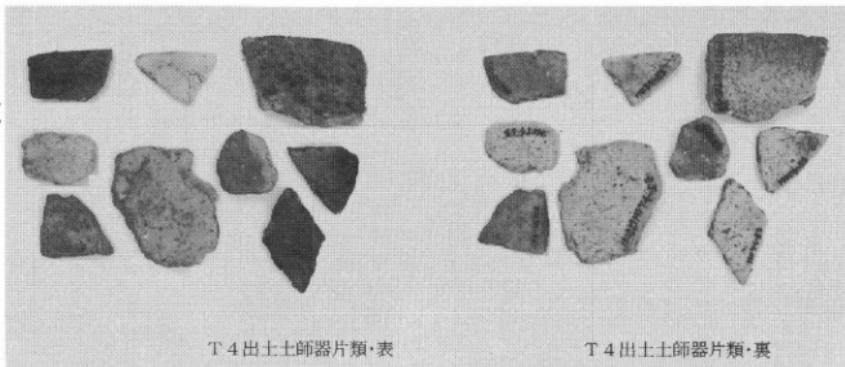
T 4 出土中世須片・表

Po 2



T 4 出土中世須片・裏

Po 2

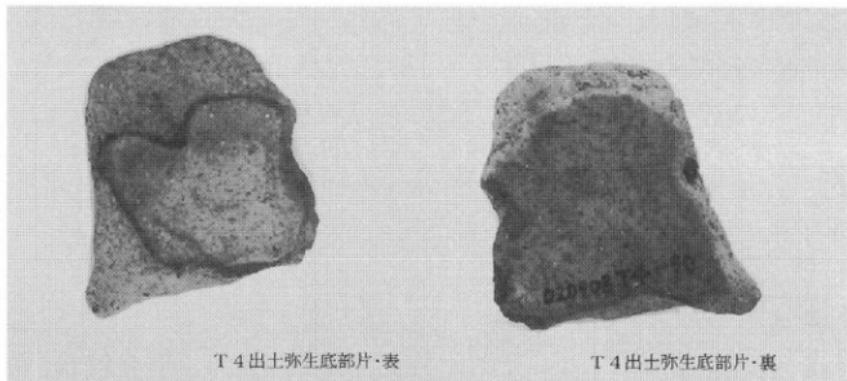


T 4 出土土師器片類·表

Po 4

T 4 出土土師器片類·裏

Po 4

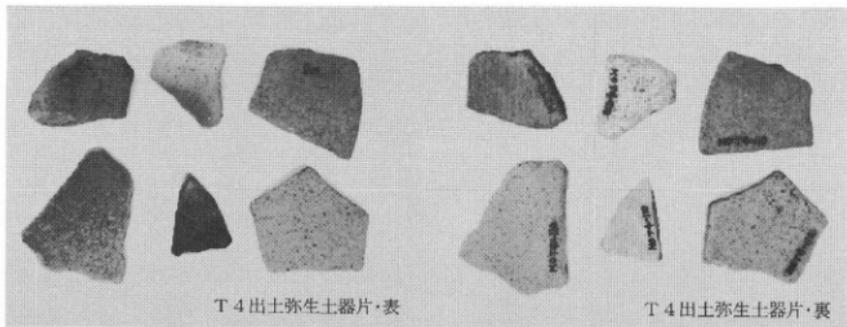


T 4 出土弥生底部片·表

Po 6

T 4 出土弥生底部片·裏

Po 6

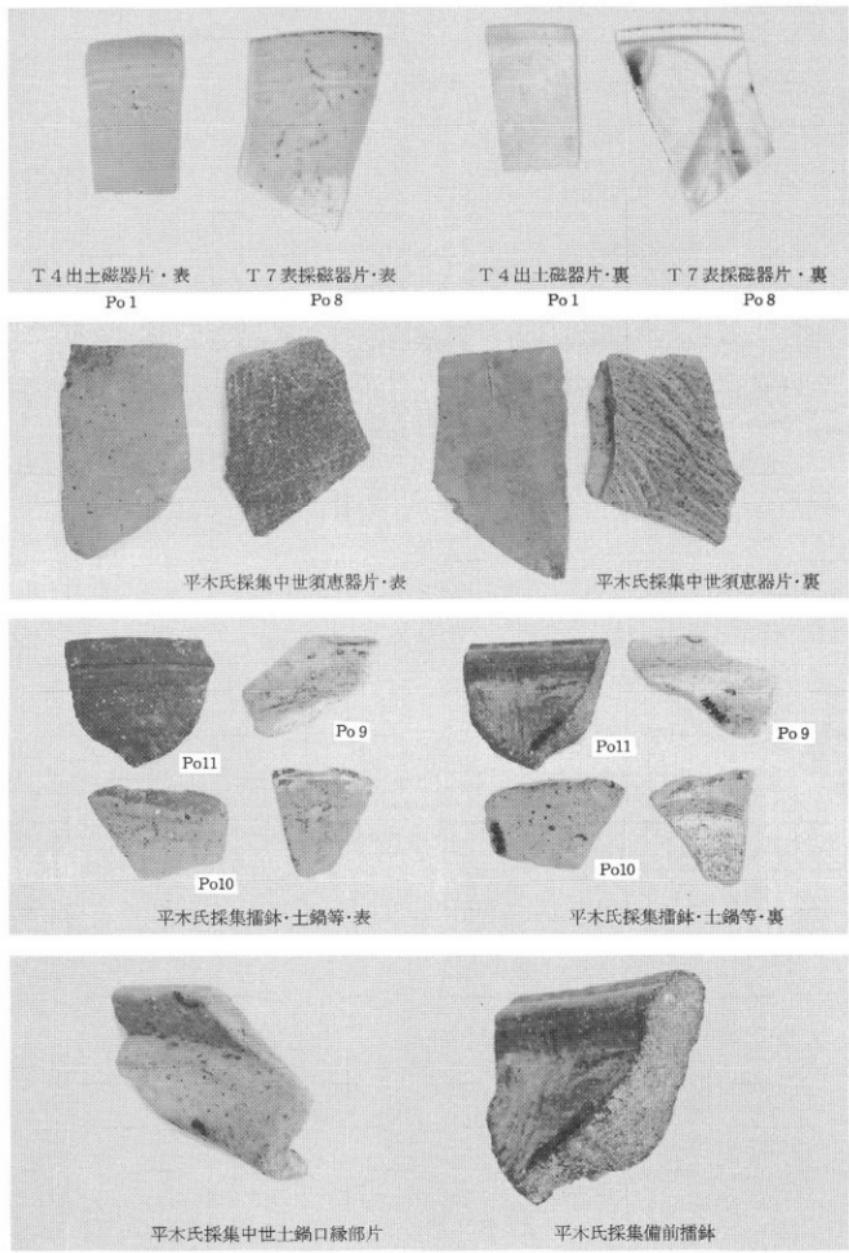


T 4 出土弥生土器片·表

Po 7

T 4 出土弥生土器片·裏

Po 7



鳥取県八頭郡船岡町  
見櫛大畠遺跡試掘調査報告書

発行 2003年3月  
発行者 船岡町教育委員会  
〒680-0495 鳥取県八頭郡船岡町船岡539  
TEL(0858)72-3976  
印刷 第一印刷有限会社  
〒680-0804 鳥取県鳥取市田島441  
TEL(0857)22-0666